

終戦  
76年

# 不戦の誓い新たに

## 憲法9条まもり抜こう



焼き場に立つ少年

1945年長崎。亡くなった弟を背負い火葬の順番を待つ少年。(撮影:ジョー・オタネル氏)

終戦76年。アジアで2000万人以上、310万人以上の日本国民の生命を奪った日本の侵略戦争。「政府の行為によって再び戦争の惨禍がおこることのないように」と決意した日本国憲法は、この戦争に対する深い反省の上に立つ、世界に向けた平和の誓いです。

菅義偉首相は、『月刊Hanada』9月号のインタビューで、安倍晋三前首相提案の「憲法に自

衛隊明記」の自民党改憲案をあげて「新型コロナウイルスに打ち勝ったあとに」、「しっかり挑戦したい」と述べました。

「自衛隊明記」は、9条2項「戦力不保持」の規定を「死文化」させ、無制限な海外での武力行使に道を開くものです。

日本を再び海外で戦争ができる国にさせないため、「9条守れ」の世論と運動を強めましょう。

余りに不誠実  
情けない

## 大幅読み飛ばし「原爆」をゲンパツ

菅首相は6日、広島市での平和記念式典のあいさつで、原稿の一部を読み飛ばすという前代未聞の失態を演じました。読み飛ばしたのは、「わが国は、核兵器の非人道性をどの国よりもよく理解する唯一の戦争被爆国」など核廃絶にむけた日本政

広島平和式典  
首相あいさつ

府の決意の根幹部分でした。また、「原爆」を「ゲンパツ」と読み間違えも。

国際政治の焦点となっている核兵器禁止条約にもいっさい言及しませんでした。あまりに情けないと言わなければなりません。

日本共産党創立99周年

## 侵略戦争反対 民主主義へ命がけ

「侵略戦争反対」は、平和と民主主義を求める日本共産党の原点です。

## 「反戦で日本人の 名誉を救った」

「天皇絶対」の専制政治のもと、共産党のたたかいは文字通り命がけでした。宮本顕治元議長は12年間も投獄され、あらいが続けた一人です。後に評論家の加藤周一さんは、「宮

本さんは反戦によって日本人の名誉を救った」と語りました。

## 戦前の主張は戦後、憲法に結実

敗戦にともなう「ポツダム宣言」は日本の戦争を侵略戦争と断罪。共産党のたたかいは、人権、民主、平和を柱とする現憲法に実りました。

## 自民党が認めた「共産党の権威」

「他の政党が何らかの形で戦争に協力したのに対し、ひとり共産党は終始一貫戦争に反対してきた。従って共産党は他党にない道徳的権威を持っていた」(自由民主党研修叢書『日本の政党』1979年)